

情報連絡員報告総括表(平成28年11月分)

三重県中小企業団体中央会
 連絡員総数 40名
 回答数 40名 (100%)

業界の景気動向(前年同月比)

	売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員 <small>(臨時・パートを含む)</small>			業界景況									
	増 加	不 変	減 少	増 加	不 変	減 少	上 昇	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	上 昇	不 変	悪 化	増 加	不 変	減 少	好 転	不 変	悪 化							
製 造 業	食 料 品		4			4		1	3			4		1	2	1		3	1		4			4		1	2	1						
	織 維 工 業	1	2		1	2			3			2	1		2	1		2	1		3			3			1	2						
	木 材 ・ 木 製 品			1	1				1				1			1		1				1		1				1						
	紙 ・ 紙 加 工 品			2		2			2			2				2		2			1	1		1	1		1	1						
	印 刷		1			1			1			1			1			1			1			1			1							
	化 学 ・ ゴ ム																																	
	窯 業 ・ 土 石 製 品	2		1		3			3			3			3			3		1	1	1		3			3							
	鉄 鋼 ・ 金 属	1				1			1			1		1				1			1		1				1							
	一 般 機 器		1	2	1	1	1		3			3			1	2		3			2	1	1		2		2	1						
	電 気 機 器	1				1				1		1		1			1			1				1		1								
	輸 送 機 器			1		1			1			1				1			1			1		1			1							
そ の 他																																		
小 計	5	8	7	3	16	1	1	18	1		18	2	3	9	8	1	16	3	2	13	5	2	15	3	2	12	6							
非 製 造 業	卸 売 業		1	1		1	1		1	1		1	1		1	1		2		X				1	1		1	1						
	小 売 業		3	3		5	1	3	3			4	2		3	3		4	2					5	1		4	2						
	商 店 街		1			1				1		1			1			1						1			1			1				
	サ ー ビ ス 業	2	2	1	X			1	4		1	4		2	1	2	1	3	1					2	3		2	1	2					
	建 設 業	1	2	1					4		1	3		1	3			4						4			4			1	2	1		
	運 輸 業	1							1			1		1				1						1			1			1			1	
	そ の 他		1									1		1				1						1			1			1			1	
小 計	4	10	6					7	2	4	13	3	2	15	3	4	9	7	1	16	3		2	16	2	4	10	6						
合 計	9	18	13	3				23	3	5	31	4	2	33	5	7	18	15	2	32	6	2	13	5	4	31	5	6	22	12				

最近の主要指標の前年同月比D Iの推移

(平成27年11月～平成28年11月)

三重県中小企業団体中央会

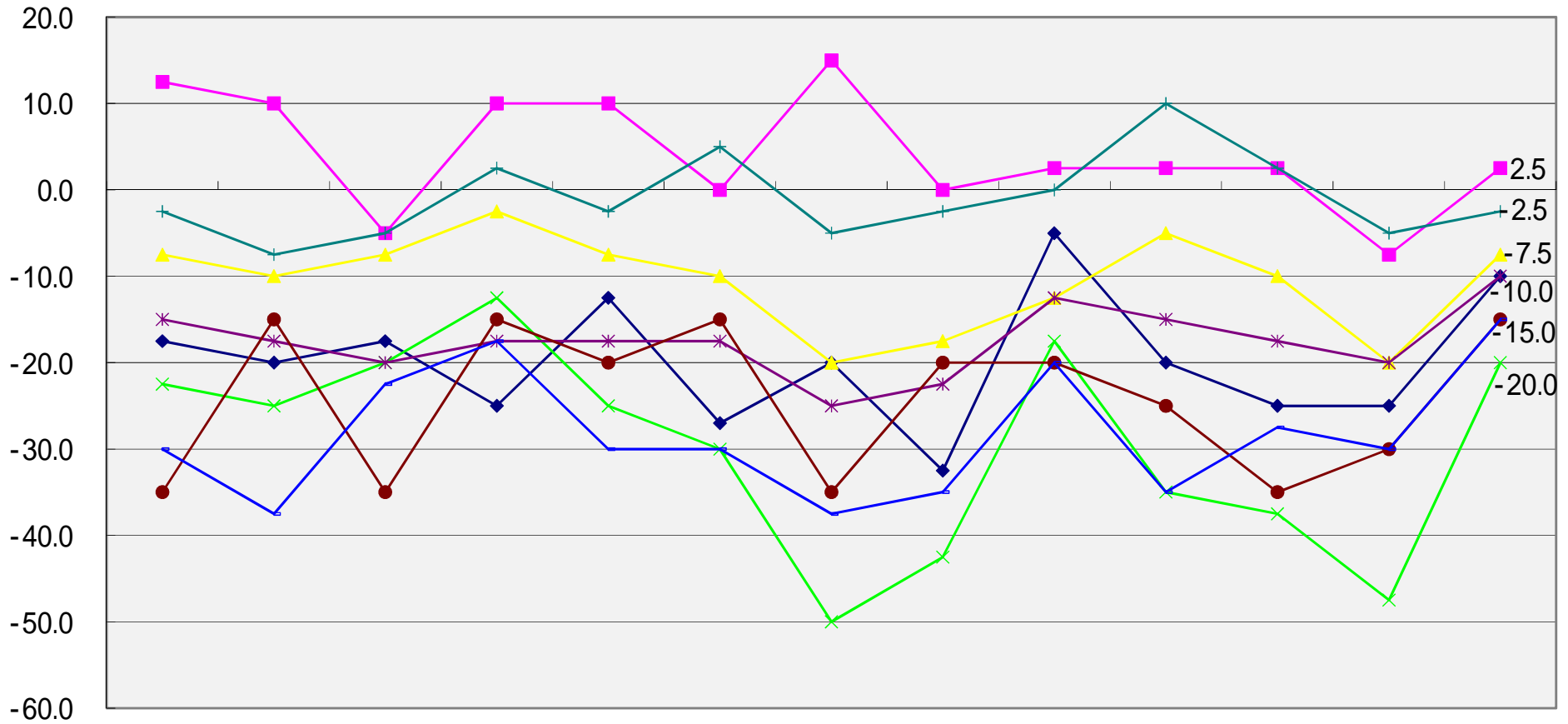
連絡員総数 40名

	27/11月	12月	28/1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	増減
売上高	-17.5	-20.0	-17.5	-25.0	-12.5	-27.0	-20.0	-32.5	-5.0	-20.0	-25.0	-25.0	-10.0	15.0
販売価格	12.5	10.0	-5.0	10.0	10.0	0.0	15.0	0.0	2.5	2.5	2.5	-7.5	2.5	10.0
取引条件	-7.5	-10.0	-7.5	-2.5	-7.5	-10.0	-20.0	-17.5	-12.5	-5.0	-10.0	-20.0	-7.5	12.5
収益状況	-22.5	-25.0	-20.0	-12.5	-25.0	-30.0	-50.0	-42.5	-17.5	-35.0	-37.5	-47.5	-20.0	27.5
資金繰り	-15.0	-17.5	-20.0	-17.5	-17.5	-17.5	-25.0	-22.5	-12.5	-15.0	-17.5	-20.0	-10.0	10.0
設備操業度	-35.0	-15.0	-35.0	-15.0	-20.0	-15.0	-35.0	-20.0	-20.0	-25.0	-35.0	-30.0	-15.0	15.0
雇用人員	-2.5	-7.5	-5.0	2.5	-2.5	5.0	-5.0	-2.5	0.0	10.0	2.5	-5.0	-2.5	2.5
業界景況	-30.0	-37.5	-22.5	-17.5	-30.0	-30.0	-37.5	-35.0	-20.0	-35.0	-27.5	-30.0	-15.0	15.0

(注1) 「D I」はデフレーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移

27/11月 12月 28/1月 2月 3月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月



◆ 売上高
 ■ 販売価格
 ▲ 取引条件
 × 収益状況
 * 資金繰り
 ● 設備操業度
 + 雇用人員
 — 業界景況

情報連絡一覧票 (三重県中小企業団体中央会・平成28年11月分)

	集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
製造業	食料品	漬物	原料である各野菜については、量の確保及び価格面でも落ち着きが見られ、やや安定化しつつある。
		醤油味噌	食品表示における原料原産国についての表示方法が変更になるため、注視している。決定すれば、大幅に見直し、変更する必要がある。HACCPも義務化になるうとしているので注視している。
		豆腐	相変わらず、スーパー等の量販店では、県外からの安値の豆腐が多く納品されており、県内の豆腐製造業者は、市場を奪われている状況である。
		製麺	昨年に比べると、やや低迷ぎみであるが、伊勢うどんを中心に麺類市場を拡充していきたい。今後、12月に向けて販路の拡大に取り組んでいく。12月10日、11日、香川県高松市で、年明けうどん大会に出展して伊勢うどんのPRを行っていく。
	紙・紙加工品	紙器段ボール	多雨のため農産物の出荷も少なく、年末商品の動きも低調なまま推移する。
		古紙	11月の仕入量は、前年比：段ボール・約96±4%、新聞、チラシ・約95±5%、雑誌、雑紙、その他・合わせて約92±6%の中での推移と思われる。短い秋で急に寒くなり人が集まる場所が限られているが、下げ止まったところもあるように感じる。トランプ次期大統領の影響が、為替や海外市場の相場で原料価格が戻っているようである。新聞雑誌類は、発行部数が激減しており、又、様々な回収方法があり、集荷減の原因と考えられる。前々年・前年と様々な原因で集荷が悪かったがやっと明るい兆しも見え始めた。一般国民全体にお金回らずに人口減少と高齢化による消費の減少があり、小さい社会に向かっている。将来の日本の人口を商工会で教えていただき、生き残りをかけた競争が激しくなるようである。古紙の持去り行為も無くなるより、むしろ活発化している感がある。
	印刷	印刷	年末に向けてパッケージやチラシ関係の需要は伸びているが、その他一般の印刷物は、価格競争等厳しい業況が続いている。三重県民手帳はニュース等で全国の県民手帳の中でも注目商品として取り上げてもらっている。
	窯業・土石製品	伊賀焼	伊賀焼伝統産業会館及び伊賀・信楽古陶館とも入館者数は大きく減少している。売上については、伊賀焼伝統産業会館の場合は、伊賀土楽窯の土鍋のテレビ放映の影響もあって、昨年を上回った。しかし、伊賀・信楽古陶館については、大きく下回った。
	鉄鋼・金属	鍍金	当業界全体の生産量としては、10月同様で自動車関連は多くもなく、少なくともなく、横並びといった状況が続いている。家電関連部品は若干ではあるが増加した。その他の製品は扱ったものにより、増減はあるものの、ほぼ先月と変化はない。半導体関連は、10月同様増加傾向にあり、あと数年はこの傾向が続くそうという観測がされている。人手不足の状況は解消されず、非正規雇用に頼っている状況も変わりはない。
	一般機器	四日市	景況の明るさは、中小企業にとっては、あまり見られない。そうした中、組合員は各々自助努力で頑張っている。
	電気機器	鳥羽	11月に入り、懸案事項であった物が動き始め、操業度が上昇した。コストには、なかなか跳ね返ってはこないが発注、受注量が大きく伸びた。
	輸送機器	鈴鹿	特に目立った動きはないが、昨年4月の軽自動車税増税以降、軽自動車の生産が低迷したままであるのに対し、売れ筋のミニバンのモデルチェンジ効果により、業界全体として若干ながらも上向き加減のようである。
	非製造業	卸売業	肥料
小売業		青果	野菜：前半、生育遅れの影響が予想以上に長引き、野菜は全般的に高い。特にキャベツ、白菜、大根、キュウリが高値。地場産のホーレン草、小松菜は順調に入荷。安定しているのは、玉葱、ジャガイモである。後半、高値のキャベツ・白菜もやや下がり気味。大根・白菜も平年並。ホーレン草はお買得。果物：前半、全体的に品薄、早生みかんは県内産が中心で味もよい。リンゴのサンフジは長野産が不作で高い。後半、みかんは県内産・和歌山産と多くの産地から入荷。リンゴは長野産サンフジが高値。柿は、県内産が順調に入荷。味もよく、お買得。イチゴは9月の長雨で12月の入荷が心配なところである。
	自転車	自転車	天候にも恵まれ、サイクリングや様々なイベントを行ったにも関わらず、多くのショップは昨年より売上収益が20%以上の減少となり、かなり深刻な状況である。下旬に東京で開催された役員研修会に参加した。2年半前に開校となった東京サイクルデザイン専門学校和泉氏による「自転車教育の現場からみた自転車業界と当校の取り組み」と題しての講演があり、今後の組合員の店づくり、後継者問題に直結することでもあり、このような専門学校が出来たことにより、組合との連携も深め、業界の発展にもつながるものと感じている。

非製造業	小売業	家電	11月は寒暖の差が大きく、商品の動きが鈍かった。各地区で個展や合同展示会を開催したが、前年の販売確保が厳しい状況である。中でも好調商品は4Kと大画面テレビや省エネタイプで大容量の冷蔵庫・健康食育を提案した炊飯器・電子レンジ等の調理家電や掃除機等の生活家電製品が健闘した。いよいよ年間最大の需要期を控え、総顧客訪問活動で収集した見込み情報等を活かしつつ、統一個展で、的を得た実需活動を推進し、販売促進につなげていきたい。
		石油	11月度燃料油販売状況について前年対比2%前後の増販であった。11月20日過ぎに寒さの影響もあり、灯油の販売が早く始まったことも要因している。11月30日には、石油輸出機構(OPEC)の原油生産目標は3250万バレル/日で、約114万バレル/日の減産で合意した。ロシアなどのOPEC非加盟国も60万バレル/日の減産となった。この影響によりWTI原油が4ドル以上の値上げとなった。12月については、この影響により、製品価格の上昇は避けられない状況である。
		スポーツ用品	アベノミクスに大変期待をしている所だが、まだまだデフレの状態クラブ活動をする生徒たちの備品の購入が控えられているようである。いつもの年だと冬期のトレーニングのための服装等がかなり動くが、県内の組合員の店では、いつもより動きが鈍いようである。
	商店街	熊野	今月の朝市イベントは、毎年恒例となっている南紀歯科医師会と三重県衛生士会南紀支部の「歯科コーナー」、三重県薬品、また、三重県看護協会紀南支部のお馴染みの「まちの保健室」そして紀南薬剤師会の「お薬相談」と各医療機関の協力のもと「健康診断スタンプラリー」を開催、残念ながら途中雨に見舞われたが、そこそこの集客に繋がった。
	サービス業	旅館	11月は1年を通じて8月に次ぐ繁忙期のため、各地とも好調な来客で賑わっていた。特に伊勢志摩ではサミット効果で賢島が注目され、宿泊が取れないため、賢島・横山展望台に立ち寄り、周辺で宿泊を取るといった傾向もみられ、前年実績から伸ばしていたようである。しかし12月から新年に向けての先行予約状況は低調であり、対策を立てる必要がある。
		警備	毎年のことながら、公共工事増加のため、仕事量はいくらでもあるが、警備員不足に悩まされている。
	建設業	建設業	上半期での前倒し発注を受け、9月期は増加したものの、その反動から11月期は前年比24%減と大きく落ち込み、通年ベースでも前年比3.4%減となっている。補正予算が執行される3/4半期までは厳しい状況が続く見込みである。
		内装工事業	秋以降の売上等の流れから、今月は若干売上等前年同月比では、増加傾向に転じた。ただし、年末にかけて不安定な情勢は変わらない。
		水道工事業(四日市)	今月は、特に大きな変化は見られなかった。アメリカ合衆国の次期大統領がドナルド・トランプ氏に決定したことに伴い、少しは変化が見られると思われたが、全く変化はなかった。
	運輸業	トラック	輸送の需要は、若干の増加傾向にある。年末に向け対前年同期に比べ、輸送量は増加の見込みである。OPECの原油生産減産への合意により、原油の値上がりしが危惧される。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	
食料品	製麺	前日も書いたが、HACCP助成金の情報提供をお願いしたい。
一般機器	四日市	自主廃業する中小業者が増加傾向にあると聞く。大企業偏重の政策を改めないと日本の産業界が死滅する。
	伊勢	政府の取引適正化方針「サプライチェーン全体での取引適正化」への対応で、今後、下請振興法が強化されることが予想される。まずは、自社の状況を見直し、改善等の検討を進めていかなければならない。
小売業	スポーツ用品	先日東京で全国中央会の方と話す機会があり、少額随意契約の活用とその限度額の引き上げについてお願いした。「地方自治法施行令」という法律があるのだから、ぜひ三重県でも適用されるようにと思っている。少額随意契約の少額とはいくらくらいか知りたいと思っている。
サービス業	旅館	秋のシーズンには「サミット効果」が出ていたようだが、長く続くような対策、特にインバウンドの集客の強化、目先の対策として中華圏から春節期間の訪日客の取り込み対策が必要である。